

319

理研会報

第 42 回千葉県教育研究会理科 教育部会研究発表大会香取大会

11 月 9 日(水),小見川町立中央小学校および同小見川中学校を会場にして第 42 回千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会香取大会が開催されました。印旛地区からは佐倉小学校宮本正教先生,志津中学校竹内一浩先生に研究発表を行っていただきました。両先生に大会参加の報告を頂きました。

宮本正教先生(佐倉小学校)

一人一人の児童に「確かな学力」を身につけさせるための指導の工夫 ~ 第三学年「じしゃくでしらべよう」を通して~

この度,提案発表という貴重な機会をいただきました。会報の紙面をお借りして発表の報告をさせて頂きます。

本校は平成 14 年度から 3 年間にわたり文部科学省学力向上フロンティアスクールの指定を受け,研修を深めてきました。本大会では,継続研究という意味から主題のような発表を行いました。発表の概要は,次の通りです。

- ・実験で使用する用具,器具の扱い方や名称を繰り返し確認できるようにするためのガイドブックの作成について
- ・学習過程を明確化し,学習の見通しがもてるようにするためのノート指導の工夫と実験の結果や学習の成果が児童自身のものになるようにするための学習のまとめ方の工夫について
- ・学習との出会いを印象づけ,興味関心をもって主体的に学習に取り組ませるための自作教具の活用について
- ・少人数実験の実施と発表活動を充実させた授業の工夫について

本発表について講師である八千代市立萱田小学校校長稲毛英三先生からは,次のようなご指導を頂きました。

小学校理科で使用する実験道具の使い方を一冊にまとめた「ガイドブック」は児童にとって大変わかりやすく作られており,実験の能率が上がる。他校に広めて欲しい。

学び方の習得を目指し,ノート指導を充実させた点は大切なことである。むやみにワークシートを使わせることは望ましくない。また,学習のまとめについては教師の手本である「定型」から児童のオリジナルである「不定型」への発展が大切となる。

校内理科部会として日頃の成果が発表されていた。学校全体のしっかりした研究姿勢が感じられる。

広く県下から参会された先生方の貴重なご提案,ご意見をお聞きすることができ,大変有意義な研究発表会であった。本校は今年度より学力向上拠点形成事業推進校として研究を進めている。この経験を今後の研究に生かせるよう,さらに研修に励んでいきたいと思いました。

竹内一浩先生(志津中学校)

生徒一人一人の意欲を高め,自ら取り組み考える生徒を育成するための指導法の工夫

2 年生の化学変化と分子・原子の学習を通して,発表させていただきました。一つの物質に注目をして,その物質の化学変化による事象から,物質は分子・原子から成り立っているということを追ってみました。発表の概要は次の通りです。

- ・身近な物質(酢酸・水や炭酸水)を用いて物質の成分を推定する学習活動の実践について
- ・水の電気分解において生徒が主体的に実験活動に取り組める学習方法の工夫について
- ・いろいろな物質の分子・原子模型の製作について
- ・化合の実験で,段階的に実験を進めていく学習の過程の工夫について
- ・身近な物質を用いた質量保存の法則の実験について

小学校の理科の資料を探し出したり,インターネットから情報収集などを行い,手を加えて実践へと試みるようにしました。実験によっては,まだまだ改良,発展の余地があるように思いました。

本発表について講師である習志野市立第一中学校教頭井上隆夫先生からは,次のようなご指導を頂きました。

指導計画に基づいて発表されていて良い。実験のワークシートはまだ工夫することが大切である。

分子・原子について生徒にわかりやすくさせるためのモデル図をどうしたらよいか。客観的なデータがあると更に良かった。

はじめて千理研に参加させて頂き,様々な領域,分野に教科研究されている先生方の多さに圧倒されてしまいました。今後も教材研究を続け,研鑽していきたいと思いました。

事務局より

宮本正教先生,竹内一浩先生,お忙しい中,研究発表をなされ大変ご苦労さまでした。両先生の研究は意欲的,実践的な研究であり各方面から高い評価を得ています。印旛地区の理科教育の発展のために今後も,役立たせていきたいと思えます。

第 55 次 千葉県教育研究集会

11 月 5,6 日成田小学校および成田中学校を会場にして第 55 次千葉県教育研究集会が開催されまし

平成 18 年 3 月 24 日

た。本研究集会には根郷小学校下畦能正先生（一部会）、西中学校伊藤保先生（二部会）が発表を行いました。両先生に大会参加の報告を頂きました。

下畦能正先生（根郷小学校）

地域の自然を活用し、地域を愛する心情を育てる理科学習

佐倉市には豊かな自然が残っている。この地域の自然環境を有効に活用し、地域を愛する心情を育てたいと考え、本主題を設定しました。佐倉市の自然を特徴づける谷津田、湧水、ピオトープに焦点をあてて教材開発を行い、理科学習を实践した結果、谷津田やピオトープ（湧水）を活用し、そこで体験学習を行うことは、地域を愛する心情を養ううえで大変有効であることが明らかになった。

実践内容として、小竹小学校 6 年「身近な植物についてのでんぶん調べ」、寺崎小学校 4 年「生き物を調べよう」、根郷小学校 4 年「小篠塚ミュージアムをつくらう」について具体的な実践発表を行った。

発表について助言者より、研究体制（共同研究）について高い評価をいただくことができた。

また、「仮説のたて方」「レポート全体の組み立て方」については改善を求められました。

普通の授業の中での大切なところ、（共同）研究の進め方、レポート作成において重要視すべき点など、多くのことについて研修を深めることができました。

伊藤保先生（西中学校）

小中の連携を生かした理科授業の工夫

千葉県教育研究集会で、3 年間にわたり研究を行ってきた本主題についての研究内容を提案する機会を頂いたことは大変光栄なことでした。私たちは「確かな宇宙観」を育てるための学習内容の編成および小学校と中学校が連携した指導を工夫し、小学校での交流授業を中心に実践報告をしました。

県教研では、教材教具を活用した効果的な指導についての提案が 6 件、意欲・関心を引き出す指導と評価に関する提案が 3 件でした。

長生支部の「冷凍マウス」を使った内蔵の観察の工夫の実践では、解剖を通して学ぶ意義について深く話し合いが行われました。教材の選定や扱い方、生命尊重の視点について活発な討論が行われました。また安房支部の提案は自作教具の活用を研究の柱とした提案でしたが評価までも含み非常ににバランスのとれた研究内容でした。

私たちの提案は、県教研で研究発表されていない提案内容でありましたので参加者の先生方や助言者の先生から大きな関心を集めました。特に小学校での交流授業については具体的な方法や手順、留意点など細かい点について質問を受けました。

2 日間の意見交換は、今後より良い授業実践を行う意欲を高めるものとなりました。このような勉強する場を与えて頂きましたことに感謝いたします。

事務局 印西市立原山小学校

第 55 次全国教育研究集会参加報告

成田市立西中学校 伊藤保

サブライターという立場ではありましたが、2 月 25 日から三重県で開催された第 55 次全国教育研究集会に参加させていただきました。

2 日間で 33 本の提案がありました。様々な実践が次々と発表され、各実践に対して活発な討論が展開されました。討論の柱は、「私たちは今、地域でどう生きるのか」「地球市民という意識をどう培うのか」「循環型社会の実現」の 3 つあり、印旛教育研究集会や千葉県教育研究集会とのちがいもあり戸惑いを感じながらの参加でした。

また、理科通信について、4 本ほどの提案がありました。理科指導の新しい流れの一つを担っていることを感じました。さらに、身近な地域にある素材の教材化についても多くの発表がありました。その中でも沖縄県の草編み玩具を活用した授業実践は目を引きました。生徒が作品づくりを行いながら動物のからだのつくりや動物の分類のしかたを考え学ぶことができる優れた実践でした。

提案、討論を聴くなかで、ふだん忘れがちになっている「教育の目的は何か」「理科教育の指導するものは何か」ということについて改めて考えることができました。2 部会の研究員の先生方の協力によりこのような機会を得られましたことに大変感謝いたします。

事務局より

下畦能正先生、伊藤保先生、お忙しい中、研究発表をなされ大変ご苦労さまでした。両先生の提案は実践に裏打ちされ、たいへん優れた提案であり日常の理科学習に役立てていくことができるものであると思います。両先生の提案をもとに今後の取り組みを更に発展させ、取り組みを広めていくことが大切であると思われました。ありがとうございました。

編集後記

本号の理研会報は、千理研、県教研、全国教研に提案、参加なされた先生方の報告を中心に編集いたしました。研究活動を熱心になされ、またその研究内容を子供たちに還元している先生方の原稿は、どれも力強いものがあり、研究・実践の大切さを改めて感じました。日常の教育活動に追われる毎日ですが、教育を司る私たちに、やはり研修および研究活動がいかに大切であるかを今回の先生方から学び得ることができたように感じます。お忙しい中、原稿作成にご協力いただき誠にありがとうございました。

さて、今年度の理研会報は本号にて終了させていただきます。今年度は大きく変わった点は理科研究部のホームページを立ち上げたことです。

来年度以降、さらに充実させていきたいと思っておりますのでご協力お願いいたします。

1 年間ご愛読ありがとうございました。

<http://rikainba.or.tv>